

器楽専攻目次(下線部をクリックするとリンク先に飛びます)

1. 鍵盤楽器

<u>入学試験科目</u>	1
◇課題曲	
■ <u>ピアノ</u>	2
■ <u>ピアノ演奏家コース</u>	3
■ <u>ピアノ・創作コース</u>	3
■ <u>チェンバロ</u>	4
■ <u>オルガン</u>	4

2. 弦・管・打楽器

<u>入学試験科目</u>	5
◇課題曲 弦楽器	
■ <u>ヴァイオリン</u>	6
■ <u>ヴィオラ</u>	7
■ <u>チェロ</u>	8
■ <u>コントラバス</u>	9
■ <u>ハープ</u>	9
■ <u>クラシックギター</u>	9
◇課題曲 木管楽器	
■ <u>フルート</u>	10
■ <u>オーボエ</u>	10
■ <u>クラリネット</u>	11
■ <u>ファゴット</u>	11
■ <u>サクソフォーン</u>	11
◇課題曲 金管楽器	
■ <u>ホルン</u>	12
■ <u>トランペット</u>	12
■ <u>トロンボーン</u>	12
■ <u>バス・トロンボーン</u>	13
■ <u>チューバ</u>	13
■ <u>ユーフォニアム</u>	13
◇課題曲 打楽器	
■ <u>ティンパニ</u>	14
■ <u>小太鼓</u>	14
■ <u>マリンバ</u>	14

② 器楽専攻

鍵盤楽器

入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験

詳細は「①一般選抜概要」を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または英語が公用語となっている国・地域に居住する者で、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けた者は免除する。ただし、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音(30分)：旋律聴音(8小節程度)・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・・・・・・・・大譜表による四声体和声(密集)、8小節程度

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する

5. 副科実技(ピアノ) ※オルガン志願者のみ

※すべて暗譜で演奏すること

(1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No. 39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノン No. 39 の場合は、速度はJ=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

(2) J.S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)

6. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

【ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース対象】
「対面式」と「非対面式(実技の動画審査)」から選択することが可能です。
※曲目記入票記入の際は、総時間には曲間を含めず、各曲の演奏時間の合計時間を書くこと。

課題曲

■ピアノ

⇒ 暗譜で演奏すること。

次の a 課題または b 課題を選択すること。

a 課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第 1 巻、第 2 巻より任意の 1 曲（プレリュードとフーガ）

※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。

- (2) 次の (イ) ～ (ホ) の練習曲集より任意の 2 曲（同一作曲家の組み合わせでなくても可）

(イ) モシュコフスキー Op. 72

(ロ) クレメンティ(タウジヒ編による 29 の練習曲より選択のこと)

(ハ) チェルニー Op. 740 (50 番練習曲)

(ニ) モシェレス

(ホ) ショパン Op. 10、Op. 25 (Op. 10 No. 6、Op. 25 No. 7 を除く)

- (3) 自由曲 (5 分以上 8 分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること。)

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

b 課題

自由曲 (12 分以上 17 分程度。1 曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

■ピアノ演奏家コース

⇒ 暗譜で演奏すること。

次の a 課題または b 課題を選択すること。

a 課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第 1 巻、第 2 巻より任意の 1 曲（プレリュードとフーガ）

※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。

- (2) ショパン『練習曲集』Op. 10、Op. 25 より任意の 2 曲（Op. 10 No. 6、Op. 25 No. 7 を除く）

- (3) 次の①または②を選択すること。

- ① 次の（イ）～（ト）の練習曲集より任意の 1 曲

- （イ）リスト
- （ロ）ドビュッシー
- （ハ）スクリャービン Op. 8、Op. 42、Op. 65
- （ニ）ラフマニノフ Op. 33、Op. 39
- （ホ）プロコフィエフ Op. 2
- （ヘ）バルトーク Op. 18
- （ト）リゲティ

- ② ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのソナタの中から、任意の楽章を 1 つ

- (4) 自由曲（12 分以上 15 分程度。複数曲を演奏する場合は、楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

b 課題

自由曲（25 分以上 30 分程度。1 曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※器楽専攻（ピアノ演奏家コース）の受験結果により、器楽専攻（ピアノ）に合格となる場合がある。

■ピアノ・創作コース

- (1) ピアノ実技 次の a 課題または b 課題を選択すること。

⇒ 暗譜で演奏すること。

a 課題

- ① J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第 1 巻、第 2 巻より任意の 1 曲を選択し、プレリュードまたはフーガのどちらかを演奏する。

- ② 次の（イ）～（ホ）の練習曲集より任意の 1 曲

- （イ）モシュコフスキー Op. 72
- （ロ）クレメンティ（タウジヒ編による 29 の練習曲より選択のこと）
- （ハ）チェルニー Op. 740（50 番練習曲）
- （ニ）モシェレス
- （ホ）ショパン Op. 10、Op. 25（Op. 10 No. 6、Op. 25 No. 7 を除く）

- ③ 自由曲（5 分以上 8 分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること。）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

b 課題

自由曲（12分以上17分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること）

省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

（2）創作

自作の楽譜を1曲、出願書類と共に提出すること。編成および曲の長さは自由とする。

例：ピアノ独奏曲、電子オルガンを含むアンサンブル作品等

■チェンバロ

（1）J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』（第1巻、第2巻）から、任意のプレリュードとフーガを1曲

（2）D.スカルラッチェの任意のソナタを1曲

（3）通奏低音

『クラヴィス』（現代ギター社刊）のp.80-84の練習1~10のうちから、当日指定されたものを、右手用のガイドなしで演奏する。

※いずれも暗譜の必要なし。

※楽器は二段鍵盤チェンバロ（音域FF~f3、8'8"4、a1=415）

■オルガン

（1）J.S.バッハ『オルガン小曲集』（Orgelbüchlein BWV 599-644）から任意の5曲

（2）任意のオルガン曲1曲（コラール編曲以外の作品とする）

※暗譜の必要なし。

※アシスタントの要、不要を専攻別曲目記入票に記入すること。

※試験日以前に、レジストレーションのための若干の練習時間を与える。

弦・管・打楽器

入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験

詳細は「①一般選抜概要」を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または英語が公用語となっている国・地域に居住する者で、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けた者は免除する。ただし、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音(30分) 旋律聴音(8小節程度)・・・各専攻共通1題および専攻別1題
和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること

- (1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No. 39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノン No. 39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

- (2) 自由曲：ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

6. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

課題曲

弦楽器

■ヴァイオリン

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch: Scale system (C. フレッシュ『スケール・システム』)より、任意の長調または短調を選び、第5、6、7、8番を演奏する。運指の指定なし。

- ① 第5番は冒頭から12小節目までを演奏する。 $\text{♩}=60$ 以上(スラーは下記のC-durに準ずる)
- ② 第6、7、8番は各々冒頭から4小節目までを、速やかに続けて演奏する。 $\text{♩}=60$ 以上(スラーは16分音符4個以上とする。1小節2弓でも可。下記の第6番参照)

第5番 $\text{♩}=60$ 以上



第6番 $\text{♩}=60$ 以上



(2) 練習曲

P. Rode、J. Dont (Op. 35)、N. Paganiniの練習曲、カプリスより任意の1曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の1曲

※N. Paganiniのカプリスについては、No. 17、24以外は、繰り返しはなしで演奏すること。

(3) 任意の協奏曲より第1楽章(カデンツァを含む)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※演奏によりヴィオラに適性ありと認め得る受験者は、ヴィオラで合格となる場合がある。

※(1)~(3)の順で演奏すること。

■ ヴィオラ

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch: Scale system より、任意の長調または短調を選び、第 5、6 番を演奏する。
運指、テンポの指定なし。

- ① 第 5 番は冒頭から 12 小節目までを演奏する。
- ② 第 6 番は冒頭から 4 小節目までを演奏する。(スラーは 16 分音符 4 個以上とする)

The image shows two musical exercises for Viola. The first exercise, No. 5, consists of 12 measures of a scale system in 4/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one flat. It features a series of eighth and sixteenth notes with slurs and a triplet of eighth notes in the first measure. The second exercise, No. 6, consists of 4 measures of a scale system in 4/4 time, starting with a bass clef and a key signature of one flat. It features a series of eighth and sixteenth notes with slurs and a triplet of eighth notes in the first measure. Both exercises end with a double bar line.

(2) B. Campagnoli: 41 Caprices (B. カンパニョーリ『41 のカプリース』) から任意の 1 曲、
または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の 1 曲

(3) 次の (イ) ~ (ハ) より任意の 1 曲

- (イ) Carl Stamitz: ヴィオラ協奏曲ニ長調作品 1 より 第 1 楽章
- (ロ) Franz Hoffmeister: ヴィオラ協奏曲ニ長調 より 第 1 楽章
- (ハ) 上記の (イ)、(ロ) と同程度もしくはそれ以上の曲から 1 曲 (版の指定なし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※ヴァイオリンによる受験可。出願書類の志望欄にヴィオラと記入し、ヴァイオリンの課題で受験すること。

※(1)~(3)の順で演奏すること。

■チェロ

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。

【音階】



【分散和音】



(2) 練習曲

次の(イ)～(ハ)より任意の1曲

(イ) D. Popper : Hohe Schule des Violoncellspiels, Op. 73 (ポツパー : 40 の練習曲)

(ロ) J. L. Duport : 21 études (デュポール : 21 の練習曲)

(ハ) A. Schroeder : 170 foundation studies for violoncello, 2 (シュレーダー : 170 の基礎練習第2巻)

(3) 任意のチェロ協奏曲より第1楽章または最終楽章 (カデンツァなし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

■コントラバス

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。



(2) 下記のいずれかを選択すること。

- (イ) 任意のソナタより第1楽章と第2楽章
- (ロ) 任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章

※オーケストラチューニング、暗譜で演奏すること。

※(2)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に準ずる)。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■ハープ

(1) F. J. Naderman : 7 Sonates progressives, Op. 92 より任意の第1楽章

(2) 自由曲 (J. L. Dussek のソナタまたは同程度の難易度の作品) 1曲

※暗譜で演奏すること。伴奏なし。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■クラシックギター

(1) F. Sor または H. Villa-Lobos の練習曲より任意の1曲

(2) 自由曲1曲

※暗譜で演奏すること。伴奏なし。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

課題曲

木管楽器

■フルート

(1) 音階および分散和音

M. Moÿse : Exercices journaliers pour la flûte (M. モイーズ『フルートのための日課練習』) より 長音階 (A)、短音階 (B)、分散三和音 (C) を演奏する。

♩ = 60 (譜例参照)



(2) J. Andersen : 24 Studies for flute, Op. 15 (J. アンデルセン『24のエチュード 作品15』) より No. 2, No. 11

(3) W. A. Mozart : フルード協奏曲 第2番ニ長調 K. 314 より第1楽章 (カデンツァは含まない)

※いずれも版の指定なし。暗譜の必要なし。

※(1)(2)(3)それぞれ演奏箇所は当日指定する。

※(3)の伴奏者は大学が用意する(楽譜の提出不要)。前奏はSoloの4小節前より始める。

■オーボエ

(1) 音階

次のA、Bいずれかの音型によって長音階と短音階を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜。



(2) F. W. Ferling : 48 Etudes, Op. 31 (F. W. フェルリンク『48のエチュード』) Nos. 1-6の中から当日指定する。

※(2)は版の指定なし。暗譜の必要なし。

■クラリネット

(1) 音階

R. Eichler : Scales for Clarinet より各調の1番をスラーで演奏すること。調性は当日指定する。暗譜。

(2) E. Cavallini : 30 Capricci (Ricordi) より Nos. 13, 17, 19 の3曲。演奏箇所は当日指定する。

(3) C. M. v. ウェーバー: クラリネット小協奏曲 変ホ長調 作品 26 (カデンツァは演奏しない)。

※ (2) (3) は暗譜の必要なし。

※ (3) の伴奏者は大学で用意する (楽譜の提出不要)。前奏は Solo の3小節前より始める。

■ファゴット

(1) 音階

次の音型によって、長音階と和声的短音階を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜。



(2) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op. 8. Vol. 2 の Nos. 1-15 より当日2曲指定する。

(3) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op. 8. Vol. 2 の Nos. 22-43 より任意の1曲

※ (2) (3) は暗譜の必要なし。

■サクソフォーン

⇒ アルト・サクソフォーンで演奏すること。

(1) 音階

次の音型によって、長音階と和声的短音階をスラーで演奏すること。調性は全調の中から当日指定する。暗譜。繰り返しなし。

音階譜例



(2) F. W. Ferling : 48 études pour tous les saxophones (F. W. フェルリンク『サクソフォーンのための48の練習曲』[M. ミュールによる増補改訂版] (A. Leduc)) より任意の奇数番号1曲と任意の偶数番号1曲の計2曲を演奏すること。

(3) 自由曲1曲 (編曲作品可。抜粋の場合は、楽章等を専攻別曲目記入票に明記すること)

※ (2) (3) は暗譜の必要なし。伴奏なし。

課題曲

金管楽器

音階および分散和音

ホルン、トロンボーン、バス・トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム共通課題

次の例にしたがって、長音階と短音階を暗譜で演奏すること。調性、音域は当日指定する。



■ホルン

(1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）

調性、音域は当日指定する。

(2) W. A. Mozart : ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 より 第1楽章（カデンツァなし）

※(2)は暗譜の必要なし。伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。前奏は Solo の4小節前より始め、それ以降のカットなし。

■トランペット

(1) Théo Charlier : 36 études transcendantes (Alphonse Leduc 版) より No.2 “Du style”

(2) 以下の4曲より1曲を選択し演奏。

①Théo Charlier : Solo de concours (Schott 版)

②Camille Saint-Saëns : Fantaisie en mi bémol (Alphonse Leduc 版)

③Roger Boutry : Trompetunia (Alphonse Leduc 版)

④André Chailieux : Morceau de concours (Alphonse Leduc 版)

※暗譜の必要なし。伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。

■トロンボーン

(1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）

調性、音域は当日指定する。

(2) J. Rochut : Melodious Etudes for Trombone. Book 1. Edited by Alan Raph (C. Fischer) より No. 8

(3) G. Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (G. コプラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』(全音楽譜))より No. 15、No. 40

※繰り返しなし。暗譜の必要なし。

■バス・トロンボーン

- (1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）
調性、音域は当日指定する。
- (2) O. Blume : 36 Studies for Trombone with F Attachment (G. Fischer) より
Nos. 5、23、25

※暗譜の必要なし。

■テューバ

- (1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）
調性、音域は当日指定する。
- (2) G. Kopprasch : 60 Selected Studies (R. King Music) Nos. 12、14、16、20、22
M. Bordogni : 43 bel canto studies (R. King Music) Nos. 1、4、7、12、14
以上の中から当日指定する。いずれも途中でカットする場合がある。
- (3) J. S. Bach : Air and Bourrée (Wm. J. Bell 編曲)

※(2)(3)は暗譜の必要なし。版の指定なし。

※(3)の伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。

■ユーフォニアム

- (1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）
調性、音域は当日指定する。
- (2) J. Rochut : Melodious Etudes for Trombone の Nos. 3、4、5 より当日指定する。
- (3) J. B. Arban : Variations on a Song “Vois-tu la neige qui brille” (The Beautiful Snow) (「輝く雪」の歌による変奏曲) Arban' s Complete Conservatory Method 所収

※(2)(3)は暗譜の必要なし。版の指定なし。

※(3)の伴奏者は大学が用意する（伴奏譜の提出不要）。前奏なし。

[使用楽譜] J. B. アーバン『12の幻想曲とアリア』 No. 5 (ISR Collection, 全音楽譜)

課題曲

打楽器

ティンパニ、小太鼓、マリンバのいずれかの課題で受験すること。

下記の専攻実技の課題を記載の順で演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

■ティンパニ

- (1) ロール $pp \ll ff \gg pp$ Es(変ホ) (30秒以上)
- (2) R. Hochrainer : Etüden für Timpani. Heft 1 (Doblinger) の Nos. 19、26、39、40、43、44 より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) 小太鼓による2つ打ち（響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと）
- (5) マリンバによる2オクターヴの長音階と短音階。調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。

■小太鼓

- (1) 2つ打ち、ロール $pp \ll ff \gg pp$ (30秒以上)（響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと）
- (2) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm の Nos. 1、4、12、13、31 より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) マリンバによる2オクターヴの長音階と短音階。調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。

■マリンバ

- (1) 3オクターヴの長音階、短音階、分散和音。調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。
- (2) M. Goldenberg : Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Alfred Music) の 39 Etudes より XV (15番)。
- (3) 自由曲（伴奏なし）
- (4) 簡単な初見演奏
- (5) 小太鼓による2つ打ち（響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと）